

市民の暮らしの深刻な実態

弱気をくじく小泉^{自民}政治のしわ寄せ

福田明^{手記}

総選挙が終わって、はや一ヶ月以上が過ぎました。選挙中に寄せられていた生活相談の解決に追われる毎日です。特に多いのは、一時期ほどでなくなったと思われたサラ金被害をはじめとする多重債務の問題、また、「病気を抱えながらも医療保険証やお金がなく医者にもかかれない」という、

当人にとっては生きた心地がしない深刻な相談です。このような事態に陥った原因は、たしかに本人にもありますが、大きくみれば小泉内閣がすすめる「構造改革」にこそあると思えます。この内閣がこの間やってきたのは、不良債権処理の名での中小零細企業つづし、医療・年金の大改悪

等々の国民いじめ・弱いものいじめの政治です。その一方で史上空前の利益を上げている大企業・財界に対しては大幅な減税など、いたれりつくせりの政治です。この「強きを助けて、弱きをくじく」政治のしわ寄せが、個々の市民の暮らしを直撃して、生きることさえ困難にしている元凶だと思っています。

今月、以前から相談を受けていた2人の市民が、同じ日に倒れて救急車で運ばれる事態に遭遇しました。2人とも無収入に近い状態で、よくこれまで生きてきたな、と思われる状態でした。残念ながら1人の方は、10日後に亡くなりましたが、途方に暮れる遺族を支えてお悔やみの手伝いをさせていただきます。

総選挙での自民大勝のおごりから、今後ますます国民犠牲の政治が強行されるでしょう。しかし、この政治の危うさに気づいた国民は、必ずそれを乗り越えて、国民本位の政治を実現すると確信しています。ある人が「強い者には味方はいらないが、弱い人には味方がいる」と言いましたが、こ

ご相談はお気軽に



市議会議員
鈴木やす子
42-2462



市議会議員
福田 明
43-0468

「北茨城民報」はインターネットでもご覧いただけます。
<http://www.jcp-ktib.com/>
編集部では身近な情報をお待ちしています。

介護 補足給付の申請確認を

鈴木やす子議員の一般質問(本紙10/2)でもお伝えしたように、介護保険の施設入所者・利用者の負担が上がりまます。食費・居住費として、1万数千円の負担増になります。

所得の低い方については補足給付という形で補助があります。ただし、そのためには申請が必要です。施設職員によって申請されていることが多いのですが、念のため確認されることをおすすめします。

サケ遡上・産卵

大北川に今年もサケが帰ってきています。写真は河口から3~4キロ上流の総寺院橋から。川底の石がノロで茶色になっていますが、手前のほうで白く見えている部分があります。ここは産卵場所として、サケたちが体を傷だらけにして川底を掘ったところだそうです。

市議が各方面に面談・要請

医師確保のために
さる10月13日、本紙前号でお知らせしたとおり、市議会の「市立病院特別委員会」(議員全員)が開かれました。そのなかで議員をいくつかのグループに分けて、医師不足解消のための各種団体等の要請をおこなうことを確認しました。グループの分け方や要請団体については正・副委員長に一任しました。

その結果、議員を4つのグループに分けて、県知事陳情、筑波大学要望、国会議員陳情、市立病院の医師との面談、等をおこなうとしています。日本共産党の福田明議員は筑波大要望、鈴木やす子議員は医師との面談のグループに入りました。日程等はこれから調整されますが、近日中に実施される予定です。